

— 広 告 —

KIT  
キャンパス  
レポート

文・出島二郎  
マーケティングプランナー



三島 みらの (みしま みらの)  
金沢工業大学大学院工学研究科  
建築学専攻  
博士前期課程一年  
島根県立松江工業高等学校出身

## 江戸から令和までの時間が つながっている金沢が好きです。

宍道湖に臨む町で育った。電気  
工事を営む父親の背中を見て、も  
のづくりに興味を持った。戦火を  
受けなかった松江の町も歩いてき  
た。城下町には時代時代の生活の  
匂いが残っている。そんな環境で  
育った三島さんは、人の暮らしに  
関わりたいと工業高校で建築を学  
び、金沢工大へ。

「金沢は魅力的に感じました。

現代建築の金沢21世紀美術館な  
どもありつつ、歴史的空間もちや  
んと残っていて、いろんな面から  
建築を学べるのと、実際に建築の  
設計をしている先生の元で研究し  
たいと思いました。それに就職が  
いいということは社会での信頼性  
が高いんだらうと。最近では、学  
生が活動しやすい場づくりをして  
いる大学だなと感じています。」

指導教授の竹内申一先生の専  
門は建築設計。研究室では設計コ  
ンペや街づくりにも積極的に参加  
し、プロジェクトとして取り組ん  
だ「しお・CAFÉ」は二〇一五  
年度のグッドデザイン賞を受賞。

「街の特徴を踏襲するとか、歴  
史的な街並みへの参加という意識  
が強く、そこに共感して研究室を  
選びました。厳しい先生です。で  
もそれは成長するためには絶対に  
必要なものと思って。先生はい  
つも、考えるだけじゃなく形にし  
てみるのが大事と言います。だ  
から四年次から多くのコンペに参  
加して、たくさん落ちましたよ。」

こう笑って話す三島さんだが、  
中部卒業設計展二〇一九で優秀賞  
を、木の家設計グランプリ二〇一  
九で銅賞を受賞した。前者は金  
沢・東山の古い街並みの駐車場を  
テーマにした「傷のあとの建築」、  
後者も旗竿地と呼ばれる町家跡を  
「マキ・マチャ 小さき住戸」町家、

その第五世代としての提案」とし  
て発表した。タイトルにドキッと  
する。言葉を大事にしているのだ。

「建築学部のある二号館には広  
い模型室がいくつもあります。各  
研究室は自由にレイアウトされ、  
竹内研究室は何もないフラットな

感じで、プリンターと共有のパン  
コンがパーティションで仕切って  
あるだけ。大学全体でもいたると  
ころに机と椅子があって、勉強し  
たり集まって話したりがすぐでき  
る。お互いに刺激になりますね。」

学部三年までは「IS(イズ)」  
という建築系アカデミックサーク  
ルに参加し、工大祭で21世紀美術  
館の大型模型を展示した。修士設  
計と就活はこれからである。学生  
時代にしかできないことをしたい  
と、三島さんは建築漬けの毎日が  
楽しくて仕方がないようだった。

### 金沢工業大学

石川県野々市市扇が丘七  
電話番号〇七六二四八二〇〇